

令和三年度 全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会

同中央審査

入選

最優秀賞

## 「生活に関わる貴重な水」

今治市立伯方中学校 三年

むらかみ  
村上 ちひろ  
千紘

私には今でも忘れられない光景があります。二〇一八年の夏に起こった西日本豪雨です。今まで経験したことのない大雨で、二六三人の方が亡くなり、たくさんの負傷者を出す大災害となりました。私の住む町でも、いろいろな所で土砂崩れが起きました。私が目にした光景は、すさまじいものでした。山から流れた土砂と折れた木で一面覆われた道路。裏山が崩れて、土砂が押し寄せていた友達の家。川が氾濫して水に浸かった建物。この災害の後、町ではしばらくの間断水が続きました。一夜の雨が町の姿を変え、人々の気持ちを不安にさせました。

それから数日の間、ニュースでは各地の被害の様子ばかり放送していました。被害の一つにダムの緊急放流による川の氾濫がありました。私はこのニュースをきっかけに、ダムについて調べようと思い立ちました。

ダムが作られる目的の一つは「治水」です。大雨が降った時に川が氾濫しないよう水の量を調整することを言います。もう一つは「利水」です。田畑に水を送ったり、生活用水を用意したりすることです。各地で行った緊急放流とは、大雨が降る前にダムの水を減らす事前放流を行ったにもかかわらず、ダムの水がいっぱいになり、ダムに入ってくる水とほぼ同じ量の水を放流することです。

家族で出掛けた時に石手川ダムの前を通ってもらい、見に行きました。とても大きく、その日もたくさんの水が流れていました。こんな

に大きいダムがいっぱいになる程の雨が降ったのだと思うと、すごく怖いなど改めて感じました。しかし、このダムのおかげで私達は、毎日不自由なく水を使えているんだとも思いました。

私の家の周りには、みかん畑がたくさんあります。夏の雨が降らない日は、農家の方が毎日のように水やりに来ていました。また、全国に知られている質の良い今治タオルを作るには、工場でたくさんのお水が必要で、だから、農業にも工業にも水は必要不可欠で、それらを手に入れるためには雨が降らないといけません。

平成六年の夏、空梅雨と猛暑により、深刻な水不足になりました。その時の写真を見ると、石手川ダムの水も減り、私が見た時と比べようもないほど少なく、乾いてひび割れた地面が露出していました。当時の新聞記事には、トイレを流せず我慢したことや、道後温泉の営業時間短縮などが取り上げられていました。このことを話すと母は、

「その時は、レストランに行っても紙皿で料理が出てきよったんよ。」と教えてくれました。また父は、

「水がなくて米が作れなかったけん、輸入したタイ米とか食べたことがあったな。」

と言っていました。水が不足すると、いろんな場面で私達の生活に影響が出ます。

学校のトイレや、いろんな場所で「節水」という文字を見かけます。蛇口をひねれば水が出てくるのが当たり前です。「節水」の文字を見ても、この水が出なくなってしまうという考えは全くありませんでした。でも、西日本豪雨を経験し、水問題について調べていくうちに、水の貴重さが改めてわかりました。

これからは、普段から節水を心がけたいです。ちょっとした努力ですが、たくさんの方が心がけることで、今後も不自由なく水を使うことができると思います。少しでも多くの人に、水の貴重さを再認識してもらい、節水を心がけてもらいたいです。